



中丹高次脳機能障害者と家族の会

“さくらの会”便り

No124号 2020.1.14

発行責任者
会 長 田中 明
編集責任者
事務局 長 上原 栄
Tel.0773-22-7859

ーリラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところー

新春交流会

明けましておめでとうございます

調理実習や音楽で 3月1日

新春交流会「サロンさくら」を、3月1日（日）10時00分から15時30分まで綾部市保健福祉センターで開催します。

午前中、当事者は調理実習、家族は、「親なきあと」について研修会。

午後、音楽療法士による「歌って、笑って、元気モリモリ」と題して、歌を通じて皆さんと楽しみます。その後、当事者・家族交流会。

参加連絡先は

西村正弘 0773-27-6523
山本静子 0773-49-0584
廣野直子 0773-42-6881

材料の準備もありますので、

2月12日（水）までに上記世話役まで連絡下さい。

参加費はさくらの会負担
（訓練教材のため）

持ってくるもの：
三角巾（てぬぐい）、
マスク、エプロンを
忘れないください。



スケジュールは

10：00から11：30まで。

調理実習（当事者）カレーライスを作ります（支援会員の皆さんの応援をお願いします。）

家族の方は、研修会を開きます。

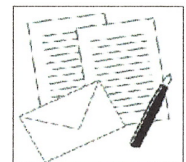
研修は「わが子のために」

講師は 藤井 奈緒先生

Officeニコ ～障害者家族当事者による「親なきあと」「親のあいだ」

の相談室代表

演題 親なきあと
（障害のあるわが子のために、
親心の記録の書き方）



11：30～12：30（昼食）

12：30～13：00（後片付け）

13：00～14：30

指導 音楽療法士 土手 緑先生による
テーマ「歌って、笑って、元気モリモリ」

14：30～15：30

茶菓子で当事者・家族交流会



グループ訓練のお礼と報告

昨年4月から12月まで行われたグループ訓練研究は、当事者6名、本多先生・セラピスト延39名、さくらの会支援者延38名の参加で終わりました。グループ訓練研究の会場に福知山市立市民病院の会議室を提供して頂き、また、多くの皆さんの支援に感謝すると共にお礼を申し上げます。関西福祉科学大学の本多先生から以下のお礼と報告がありましたので、紹介します。
(事務局)

本多先生から・・・

厳寒の候、貴台におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より高次脳機能障害の研究に対しご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

この度、文部科学省科学研究費助成事業の支援を受け、在宅型集団プログラムを用いた高次脳機能障害者の「地域実践型モデル」開発を進めておりました。

さくらの会の田中様はじめ研究参加いただきました対象者様、綾部市立病院の医療スタッフの方や様々な方のご協力を頂き2019年12月15日に研究終了したことをご報告させていただきます。

この研究は9ヶ月間の間に3ヶ月間の介入期間を設け、対象者様の経時的変化を追って参りました。

結果報告につきまして、様々お伝えしたいことがあります、1点ご紹介したいと思います。

高次脳機能障害の方が生活に戻り自身の障害について気づき始めるとストレスに負け、鬱傾向が見られる事が報告されています。

今回、新たな知見としてグループ訓練は心的ストレスを減らしながら気づきの向上を促すことができることが分かりました。



これは集団という要素とともに訓練前後にて目標設定・振り返りを細やかに行っ

た事で自分の障害の気づきをもたらすだけでなく、課題の見通し・自己効力感の獲得がもたらされたのではないかと考えております。

以上で、簡単でございますが御礼と報告にさせていただきます。

末筆ながら、益々のご発展をお祈り申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

関西福祉科学大学 保健医療学部

リハビリテーション学科作業療法学専攻

助教 本多伸行

セラピスト感想

今後につながる一助

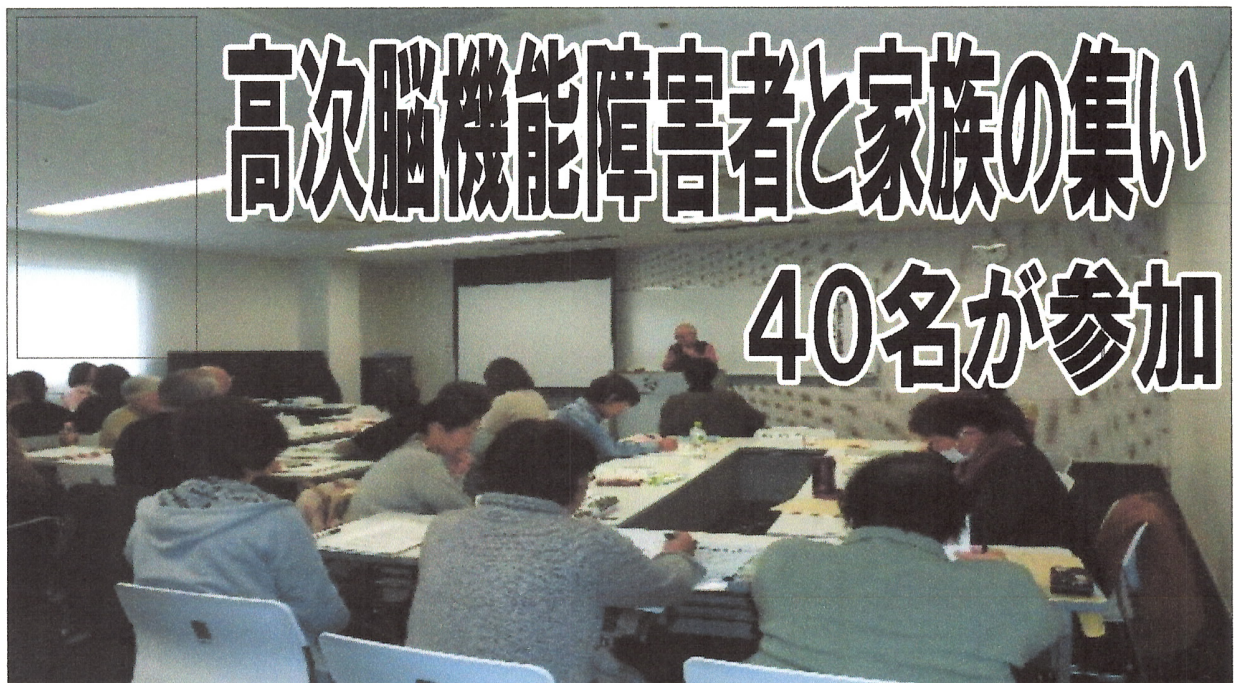
グループ訓練を通して、個々の苦手な部分に自己で気づき、今後の社会生活で活かせるように取り組んでおられました。

また、病院では個別訓練しか無いため、グループで行うことにより一つのことを協同することで、周囲への配慮やその人の何気なくしている行動が周囲の人への参考になったりします。

そのためグループ訓練は、個別訓練ではできない社会適応能力の向上や代償手段の発見に繋がる一助になっているのではないかと思います。

綾部市立病院 リハビリテーション科

作業療法士 堀江勇太



京都府リハビリテーション支援センター主催の「令和元年度京都府北部高次脳機能障害者と家族の集い」が令和元年12月4日午後福知山市の市民交流プラザふくちやまで40名の参加で開催されました。

① 中丹西地域リハビリテーション支援センターのコーディネーター足立晃平さんから「高次脳機能障害・支援の第一歩」

②地域生活支援センターふきのとうの稲垣千佳さんから「高次脳機能障害にかかる障害福祉サービス相談窓口より」

③京都府北部リハビリテーション支援センター 高次脳機能障害支援コーディネーターの鈴木美帆さんから「京都府北部リハビリテーション支援センターよりのインフォメーション」の報告等が行われました。

私たちが今後の道を

この中で、さくらの会田中明会長は、経験談として、「私の前には道はない。私たちの後には道ができる。」と題して、娘さんの平成7年の交通事故以来の長い活動経過や今後必要な道を私たちの後に作っていきましようと話されました。

各報告の後、当事者、家族・支援者の3つのグループに分かれて交流会を行いました。

参加者の声

①当事者 T・M

今回、さくらの会を通してこの集いに参加出来た事を非常に嬉しく思いました。

どんな方達が来るのだろうと気にはなっていました。が、当事者の中に《訓練と一緒に受講された方や以前お会いした方》が居られたので、安心出来ました。

支援者の方達も幅広い分野の方々が来ておられて、貴重な話を聞く事が出来ました。交流会の時に、支援者の方々が《当事者（自分達）》の抱えている【苦しい事や感じている事】に耳を傾けて頂き、今後改善していく為の力（支え）となる様な助言や出来る事を具体的に教えて頂いた事で、気持ち楽になる感覚を強く受けました。

この集いに参加出来た事で、色んな方達と知り会えた事は大きな力になりました。

本当にありがとうございました。

今後も今回の様な集いがあれば、是非参加したいと思います。



参加者の声

嬉しかったです

③家族 C・M

ご家族の皆さんのそれぞれの想いや悩みをお聞きしながら、自分の視野が狭まっていた事に気付く事ができました。

そして、支援者の方々に声を掛けて頂き、

本当に嬉しかったです。
ありがとうございました。



参加者の声

気持ちが楽に

②家族 M・・K

先日は、高次脳機能障害者と家族の集いに参加させて頂き、ありがとうございました。

診断を受けてから当事者も家族も《障害者》と言う事が中々受け入れられずに居る中、【さくらの会】に出会い、今回の集いでも有意義なお話を聞かせて頂きました。

自分の苦しい部分を聞いて頂いたりして、随分気持ちが楽になりました。

今後も【さくらの会】との御縁の中で皆さんの支援を頂き乍ら、少しでも良い方向でいつかお役に立てる事が出来れば良いのになぁ〜と想い乍ら帰路につきました。

第十六 定期総会のお知らせ

第16回定期総会を令和2年4月19日（日）に開催します。

少し先ですが今から予定しておいてください。

詳細は次号でお知らせします。



【編集後記】

▼今年のお正月は、「おせち」料理を少し作ってみました。

若い時のようにさっさと作れませんが、黒豆は上手に出来ました。

▼働き方改革なのか、一月一日に休む店が多く出てきました。

▼便利さに慣れてしまわないように、手も足も口も使いましょー！

リハビリになります。

▼それにしても今年はお正月から暖かいですね。雪も降らず、いいのですが、なんだか異常気象のような気がします。

▼便利な生活と引き換えに、地球全体がおかしくなるのも困りますね【U】

